

徳島大学蔵本キャンパスにおける模擬患者 (SP) の活動報告 ～社会人ボランティア協力による医療人教育～

長宗雅美¹⁾ 石田加寿子¹⁾ 岩田貴¹⁾ 赤池雅史¹⁾ 高石喜久²⁾ 玉置俊晃³⁾ 林良夫⁴⁾

1)徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部医療教育開発センター

2)徳島大学薬学部 3)徳島大学医学部 4)徳島大学歯学部

1. はじめに

徳島大学蔵本キャンパスでは 2002 年より社会人ボランティアの協力を得て、模擬患者 (SP: Simulated Patient) を活用した医療人教育を実施している。社会の疾病構造が変化し、「医療者に任せる医療」から「患者さんを中心に共に考える医療」が求められている現在、学生の実践を見据えた医療面接を学習する必要性は高く、その活動は大学と地域社会との繋がりとも言える。社会人ボランティアを活用した新しい医療人教育の開発・研究にむけた取り組みについて報告する。

2. 模擬患者 (SP) とは

医療におけるコミュニケーションの上達の為にはトレーニング段階にある医療人が、臨床場面を設定し、患者さん役と「会話のやりとり」を練習することが有用と考えられている。日本の医学教育においては、1998 年頃より SP を活用した教育が行われ始め、現在では多くの大学で実施されている。医療系学生のコミュニケーション教育において、「生きた教材として患者役を演ずる人」のことを、SP と呼んでいる。その役割としては主に下記があげられる。

- ①医療面接、患者指導、患者とのコミュニケーションに関する実習への協力
- ②客観的臨床技能試験 (OSCE) への協力

3. 活動実績

徳島大学では、2002 年より SP 養成に着手し、現在 8 名 (男性 2 名、女性 6 名) の SP が活動している。

| | 実習・講義 (回) | 試験 (回) | 練習・研修 (回) | 定例会 (回) | 合計活動回数 (回) | のべ活動人数 (人) |
|------------|--------------|-----------|--------------|------------|---------------|---------------|
| H21 年度 | 42 | 5 | 25 | 9 | 81 | 383 |
| H22 年度(見込) | 43 | 5 | 21 | 9 | 78 | 375 |

平成 21 年度の活動内容、実質活動時間は下記の通りである。

- ◆ 医学部：医療面接の講義・実習及び OSCE (のべ活動時間 500 時間)
- ◆ 歯学部：医療面接の講義・実習及び OSCE (のべ活動時間 150 時間)
- ◆ 薬学部：服薬指導演習 (のべ活動時間 32 時間)

4. 平成 22 年度徳島大学 SP 研究会の目標および、入会までのステップ、研修

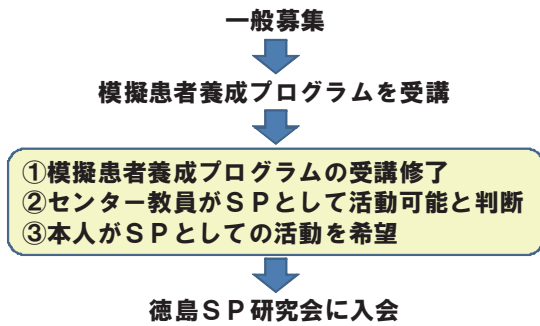
発足より 7 年を経過した当研究会の活動を、医療人教育充実にさらに役立てる為には、目標や入会・活動に至るプロセスを明確にすることが不可欠である。そこで、医療系学部教育における SP に必要な知識・技能・態度を全て含んでいる医療面接にまず焦点をあて、以下のように計画した。

①

徳島SP研究会の目標 2010年度

1. 医療面接演技の技能向上
2. 医療面接模擬患者を増やす
(医学科OSCE・実習のみでも
総勢20名必要)
→医療面接SPの継続的な育成
3. 活動におけるルールの明文化

② 徳島SP研究会への入会までのステップ



③新人養成プログラム

常に新しい風を取り入れ、健全なボランティア団体として運営し、充実、安定した医療教育手法の提供、開発を目指す。常時募集を呼びかけると共に、希望者の模擬患者活動への理解とスムーズな活動導入に向けて、約3ヶ月かけて以下のプログラムを実施する。

| 模擬患者養成プログラム (対象：入会希望者) | |
|---------------------------|-------------------|
| | 教員との面談 |
| 第1回 | 医療人教育における模擬患者の意義 |
| 第2回 | 模擬患者の役割・倫理 |
| 第3回 | 医療面接の基礎知識 |
| 第4回 | 実習での演技のポイント |
| 第5回 | OSCEでの演技のポイント |
| 第6回 | 模擬患者による評価とフィードバック |
| 第7回 | まとめ・振り返り |
| | 活動見学 |

④模擬患者技能向上プログラム

すでに活動いただいているSPに対して、さらなる技術向上の機会を提供するため、毎月行われる定例会時に20～30分程のミニレクチャーを実施する。内容は状況に応じて、教員が企画する。研修会参加後であれば、その報告を兼ねて、研修会参加者に行ってもらおうとも考えている。

| H22 模擬患者技能向上プログラム (対象：徳島SP研究会会員) | |
|-------------------------------------|--------------------|
| 10月 | 徳島SP研究会の2010年度活動目標 |
| 11月 | フィードバックのこつ |
| 12月 | OSCEでの演技に求められるもの |
| | |

5. 今後の課題

SP導入により、医療面接をはじめとする医療コミュニケーション技能は教育可能な能力であることへの理解が広まってきている。その手法として学外社会人の協力を得ることは、学習者のモチベーションを確実に飛躍させるとともに、一般市民であるSPからのフィードバックそのものが医療消費者の声であり、市民に開かれた医療者教育の実現を可能にさせる。しかし、そのためにはファシリテーターとして存在する教員の理解と技能、運営するコーディネーターの存在が不可欠である。

今後、学習者（学生）や教員、SPの意識も探りながら、多くの医療職種や多彩な医療現場を想定した医療コミュニケーション教育手法の開発と実施を目指していく。



OSCEにおける医療面接試験



医学部長から感謝状贈呈